

第 40 回櫻井健二郎氏記念賞



「第 40 回櫻井健二郎氏記念賞受賞者」

下段・左から東京大学名誉教授・荒川 泰彦 氏(櫻井健二郎氏記念賞委員会委員長)、住友電気工業・春名 徹也 氏、横浜国立大学・馬場 俊彦 氏、光産業技術振興協会副理事長兼専務理事・小谷 泰久 氏
上段・左から住友電気工業・佐久間 洋宇 氏、長谷川 健美 氏、林 哲也 氏

■第 40 回櫻井健二郎氏記念賞受賞者および受賞題目■

第 40 回（2024 年度）櫻井健二郎氏記念賞は、受賞題目「シリコンフォトニクス基盤技術の先駆的な研究とその応用開拓」に対し、横浜国立大学の馬場 俊彦 氏、受賞題目「海底ケーブル用極低損失 2 コア型マルチコア光ファイバの開発と実用化」に対し、住友電気工業株式会社の春名 徹也 氏、佐久間 洋宇 氏、長谷川 健美 氏、林 哲也 氏に授与されることが決定した。

櫻井健二郎氏記念賞は、当協会の理事であった故櫻井健二郎氏が光産業の振興に果たした功績を讃え、と共に、光産業および技術の振興と啓発を図ることを目的として創設したもので、今回の表彰を含め、合計 73 件、延べ 182 名の方が受賞している。

2024 年度の櫻井賞は、光産業および光技術の分野において先駆的役割を果たした 2014 年以降の業績を対象に、応募いただいた業績の中から厳正に選考された。

第 40 回 (2024 年度)

受賞者	所属	受賞題名と受賞理由
馬場 俊彦	横浜国立大学 大学院工学研究院 教授	<p>「シリコンフォトニクス基盤技術の先駆的な研究とその応用開拓」</p> <p>馬場俊彦氏は、近年、注目を集めるシリコンフォトニクス、特に、シリコン細線導波路とその関連光デバイスの研究に黎明期から取り組み、同分野を牽引してきた研究者の一人として広く認識されている。最近では、CMOS プロセスと互換性のあるウエハプロセスを積極的に活用し、その利用を拡大させると共に、シリコンフォトニック結晶のスローライトを利用した超小型の変調器や LiDAR など、新たな応用開拓にも取り組んでいる。</p> <p>上記のように、馬場氏は、シリコンフォトニクスの基盤技術と CMOS プロセスを用いた光集積回路の開発において優れた成果を挙げ、国内外の同分野の発展に寄与してきた。今後、さらに、産業界との連携強化により、我が国の光産業の発展に大いに貢献するものと期待され、本賞に相応しい業績と考える。</p>
(グループ) 春名 徹也 林 哲也 長谷川健美 佐久間 洋宇	住友電気工業株式会社 光通信研究所 光伝送媒体研究部 グループ長補佐 空間多重光伝送技術研究部 グループ長 光伝送媒体研究部 グループ長 光伝送媒体研究部 主席	<p>「海底ケーブル用極低損失 2 コア型マルチコア光ファイバの開発と実用化」</p> <p>近年の IoT や AI の急速な発展を背景に、情報通信量は年率 30% 以上の増加を続けている。その中でグローバルな高速大容量通信を支える光通信技術においてもその大容量化が求められており、マルチコア光ファイバの研究開発ならびにその実用化は、学会および産業界において世界的に喫緊の課題であった。</p> <p>春名徹也、林哲也、長谷川健美、佐久間洋宇の各氏はマルチコア光ファイバの低損失化・低クロストーク化・長尺化に果敢に挑戦し、その実用化に向けて長年にわたり研究開発を精力的に進めてきた。氏らは 2023 年に世界に先駆けて海底ケーブル用極低損失 2 コア型マルチコア光ファイバを実用化し、大容量化に関する新たな道を切り開いた。この成果は、将来の大洋横断級の海底系や陸上系の超大容量情報通信システムに繋がる画期的なものであり、本賞に相応しい業績と考える。</p>

以上の表彰は、2025年2月6日に開催された2024年度光産業技術シンポジウムの終了後に行われた。

櫻井健二郎氏記念賞委員会委員長、荒川 泰彦氏（東京大学名誉教授）による選考経過報告の後、賞状、メダル、副賞が受賞者に手渡され、引き続き受賞者の馬場 俊彦 氏、春名 徹也 氏より謝辞が述べられ、表彰式を終了した。